

アンケート調査

# 研究者による 研究コミュニケーション活動に 関する調査

現状と課題についての Key Findings と考察

ADVANCING  
**DISCOVERY**

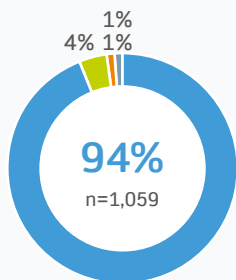
シュプリンガー・ネイチャー・ジャパンは、研究者自身による社会全般を対象とした研究コミュニケーション活動に関し、研究者の習慣、意識や課題について理解を深めるため、2023年1月にアンケート調査「研究者による研究成果の情報発信活動」を実施した。本インフォグラフィックは主な調査結果の一部と Springer Nature Japan Research Advisory Forum (JRAF 2023) で行われた議論をまとめたものである。

## 研究や研究成果を社会全般<sup>\*1</sup>に伝えることへの価値と関心

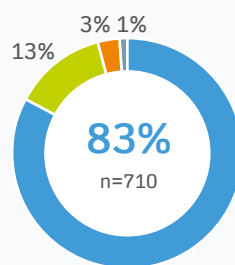


回答者の約**90%**は、研究成果を社会全般に伝えることの重要性に同意と関心を示した。また回答者の**75%**以上が自身の研究コミュニケーション活動にメリットを感じており、活動を楽しんでいると答えた。

研究者として、  
自分の研究を  
社会全般に  
伝えることは  
重要だと思う



私は社会全般に  
研究成果を  
伝えることに、  
自分にとっての  
メリットを感じている



■ 強く同意する +  
どちらかといえば同意する  
■ どちらでもない  
■ どちらかといえば同意しない +  
全く同意しない  
■ 分からない +  
考えたことがなかった

回答者が研究内容や成果を情報発信した目的のうち上位2つは：

「社会全般にとって興味深いと思われる研究成果を共有するため」

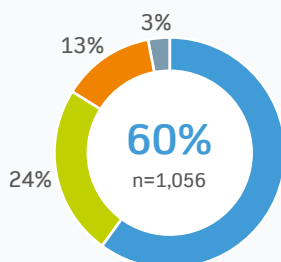
「自分の研究を広く周知するため」

## 研究者自身による研究コミュニケーション活動<sup>\*2</sup>は 研究業績の一部として評価されるべきか？



**60%**の回答者は、研究者自身による研究コミュニケーション活動は、研究業績の一部として考慮されるべきであると答えた。

研究者自身による  
研究コミュニケーション活動を  
研究業績の一部として  
評価すべきである



■ 強く同意する + どちらかといえば同意する  
■ どちらでもない  
■ どちらかといえば同意しない + 全く同意しない  
■ 分からない + 考えたことがなかった

**40～50%**の回答者は、研究コミュニケーションをより多く実施する動機として以下を選択：

「所属機関や研究資金配分機関から、研究業績として評価に加算される」

「一般市民や学生からの関心を集める」

「雇用プロセスにおける肯定的な評価」

\*1 本調査において「社会全般」の定義とは、研究者、メディアから専門知識を有しない一般市民までを指す。

\*2 本調査において「研究コミュニケーション」の定義とは、研究内容や成果の伝達や発信であり、プレスリリース、メディアによるインタビュー、ソーシャルメディア、市民講義等を指す。なお、本調査では学会発表は含まれていない。

## 研究コミュニケーションのためのサポート、リソースやトレーニング



回答者の約 **80%** は、効果的に研究や研究成果の情報発信やコミュニケーションを行うにはサポートが必要だと答えた。多くの回答者は、サポートやトレーニングを受けていない、もしくは、利用可能なリソースについて知らなかった。



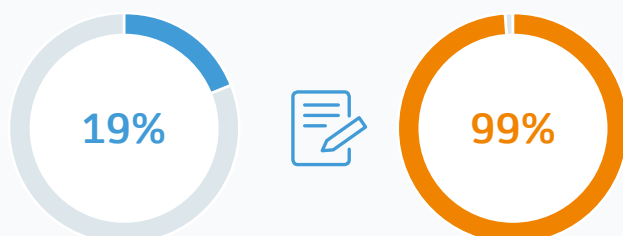
**70～99%** の回答者は、下図の内容に関するサポートがあれば、研究コミュニケーションに役立つと答えた。

■ 回答者が、自身の所属機関が提供していることを認識していたサポートやトレーニング

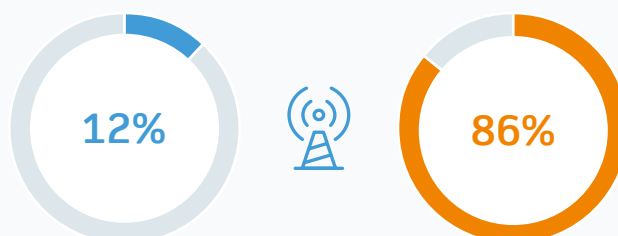
n=756

■ 回答者が、実際に役立った、また役に立つと思ったサポートやトレーニング

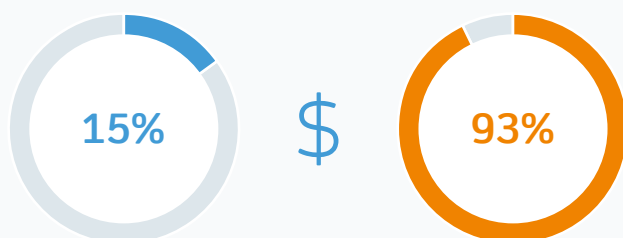
非専門家向けのサイエンスライティング



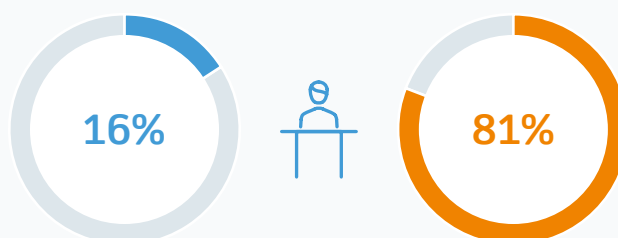
メディアとの交流に関して



資金面のサポート



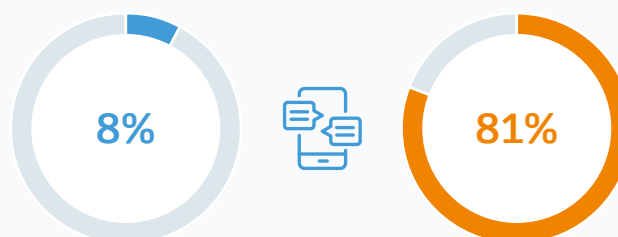
口頭でのコミュニケーションやプレゼンテーションの方法



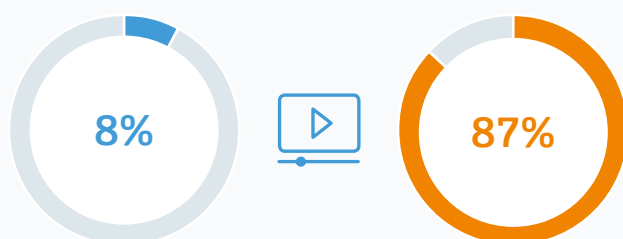
研究コミュニケーションのための視覚資料作成方法



ソーシャルメディアの活用方法や付き合い方



研究コミュニケーションのための動画作成方法



対話スキルのトレーニング



## 研究者と研究機関への推奨



### 研究者

#### リソース、サポートやトレーニングの機会について 所属機関に問い合わせる

所属機関に利用可能なリソースやトレーニングについて  
確認し、サポートが必要な場合は求める。

#### 小さな進展を効果的に伝える

すべての研究コミュニケーションが大きな進展について  
述べているわけではないため、一つ一つの進展や発見の  
重要性を効果的に説明する方法を検討する。

#### 研究成果の背景となるストーリーを共有する

研究成果そのものだけでなく、  
いかにして成果を得たかなど、研究の背景や道のり  
といったストーリーの共有を検討する。



### 研究機関

#### リソースやトレーニングについて 研究者とコミュニケーションを図る

研究者に対してリソースとトレーニングを提供し、  
研究者への周知を徹底する。  
効果的な情報発信やコミュニケーションの促進のため、  
研究者のニーズや関心について話し合う。

#### 研究コミュニケーションを 研究業績の一部として考慮する

多くの研究者は、研究コミュニケーションは  
研究業績の一部として評価されるべきと考えている。  
研究コミュニケーションの取り組みがすでに業績として  
認められている場合、研究者への周知を徹底する。

#### 研究コミュニケーションのインパクトを追跡する

研究者は研究コミュニケーションのインパクトの追跡に関し、  
サポートを必要としているかもしれない。  
研究者自身が把握できない、もしくは把握が困難な指標や  
利用状況の追跡と共有は、研究者が自分の研究や成果を  
より積極的に情報発信する動機に繋がる可能性がある。

### 研究者と研究機関の双方



お互いのニーズや関心について理解を深められるような機会をつくる

研究コミュニケーションを、一方向の情報発信ではなく、受け手との双方向の活動として捉える